



謙信公由来で四神相応 の高田の再開発を

牧井 邦生（みらい）



Q 室町時代の上越の歴史は輝かしく、血統で見れば1419年から1510年まで越後守護の子や孫が関東管領職を独占し、謙信公に至っては五七桐（現在、日本国政府の意）を下賜された。当時二度上杉家と同じ家から皇室にお妃に入り、その子孫が現在の皇室であり、また、上杉家の後の堀家は謙信公が五七桐を賜った坂本の地で興った家である。政治家の目で見れば高田の街は謙信公に因んだ仕掛けが凝らされており、それを活かして高田を再開発すべきでは。

A 歴史的背景や遺産を活かすことは肝要だ。家康が幕府を開く際に参考にした吾妻鏡によれば、家康は謙信公を征夷大将軍の格があると思なし、謙信公のご先祖とされる桓武天皇に依って高田の街を京都・平安京に因んだ四神相応の地として設計しているのがわかる。政治的意義を発信し、オンラインワンの街を目指すべき。



公共トイレの 空間整備促進を！

西沢 智子（公明党）



Q 公共トイレは子ども、高齢者、障害のある方、観光客を含む全ての方が利用する最も身近な公共インフラであるが、老朽化や照明の明るさなどの面で改善を求める声が多くある。改善の方向性をどのように考えているか。

A 順次LED照明への改修を進めている。また、公共トイレの現状について確認作業を行っているところであり、不特定多数の利用者が想定される公共トイレを対象に、優先順位を定めた上で、清潔さや明るさ、バリアフリーや女性の使いやすさなどの観点も含め、誰もが気持ちよく利用できる環境の整備を進めていく。



低出生体重児のおむつ購入支援を

Q 当市では未熟児養育医療給付制度により、入院費や医療費、入院中のミルク代に対する支援はあるが、入院中のおむつは自己負担であることから、入院中のおむつ購入費を助成する考えがあるか聞きたい。

A 現時点において、おむつ購入費の助成を行う考えはないが、保護者の気持ちに寄り添いながら支援に努めていく。



原発再稼働の安全性と 市民理解の方法は

伊崎 博幸（参政党）



Q 原子力災害と豪雪や地震が同時に起きる複合災害時において、対策は万全か。

A 万全ではないが、複合災害発生時の安全体制の確保、原子力防災対策に関する理解を深めるための住民への説明、避難路の整備などを国、県に強く要望している。

Q 住民の不安をどのように解消するのか。

A 原発再稼働にあたる不安の内容把握に努める中で、継続した住民への説明が必要であることを確認したことから、原子力防災体制の強化について、県から国に働きかけるよう求めた。

Q IPCCの委員である杉山大志氏の報告書では、日本が脱炭素を達成しても気温は約0.006度しか下がらないとされているが、脱炭素を進めるメリットは何か。

A 豪雪、猛暑、水不足、農作物被害などが発生しているため、対策は重要と認識している。

Q IPCCは気候変動の要因は温室効果ガス以外にもあると発表しており、アメリカ、欧州をはじめ、世界の動きは脱炭素に対して懐疑的であることから、当市の第2次地球温暖化対策実行計画の見直しを検討してはどうか。

A 国の法令と方針に基づき、責務として地球温暖化対策計画を策定し、目標達成に向けて取り組を進める。